

活 動

テキサス大学 MD アンダーソンがんセンター (MDACC) との 姉妹協定 (Global Academic Program: GAP) 締結に向けて

永田 靖 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 医学分野 放射線腫瘍学 教授

2016年7月22日～23日に広島大学とテキサス大学MDアンダーソンがんセンター (MDACC) は広島大学病院大会議室で合同シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは広島大学とMDACCとの姉妹協定 (GAP) 締結を目指して、両者の研究面での交流を深めるために開催されたものです。現在MDACC放射線腫瘍学には広島大学出身のRitsuko Komaki教授が在籍しておられ、多方面で本姉妹協定締結に向けてご協力頂いています。22日はまずGAPオフィサーである、Dr. Boglerと安井研究院長との間で協定締結に向けた覚書を締結しました。その後、平川病院長の開会の辞の後に、一般講演に移り、MDACCより8人の教授が講演され、本学の医歯薬保健学研究院、原爆放射線医科学研究所からの9人の発表を含めて、消化管がん、トランスレーショナルリサーチ、肺がん、低線量被ばく、肝臓がん、看護等のセッションで熱心な討論が行われました。また、一般ポスターセッションも併催され、19題のポスターが日米から発表されました。23日には両者の代表者によるコア会議が開催され、両大学で共同研究や共同臨床試験を積極的に推進していくことが確認されました。今後、両者で実りある研究成果や臨床成果を挙げることにより、是非とも姉妹協定締結を近年中に実現したいものです。



一般講演の様子



ポスターセッション

～ 留学報告記 ～

医歯薬学総合研究科 河野 美保

広島大学大学院医歯薬学総合研究科所属の河野美保と申します。現在テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンターにて乳癌肺癌の臨床研究を行っております。乳癌は、上野直人教授のもとで、アンドロゲンレセプターの治療上の役割、somatic mutationと転移の関連性、肺癌は、小牧律子教授のもとで、肺小細胞癌に関わる二次癌の発生についての研究に携わっています。Retrospective studyの手法を主に学びながらprospective studyのprotocolの作成にも関わり、一つの臨床試験が出来上がるまでの流れを身を以て経験させて頂いております。このような貴重な機会を下さいました対がん協会、リレー・フォー・ライフの関係者の方々、留学前より多くのアドバイスとともに支えて下さいました血液・腫瘍内科教授の一戸辰夫先生にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。



河野美保さん(左)、小牧律子教授(右)